

町長コラム

温故 創新



天の川蛭祭り

今年で、17回目となる白金プラザ会天の川蛭祭りに港区の清家愛区長と一緒に見学させていただきました。10数年ぶりの参加でしたが、毎年來客数も増え今年は3日間で4万人以上と大盛況でした。

20年ほど前に初代白金プラザ会会長の藤澤保さんが、白金の子供達に本物の蛭を見せてあげたいと、都道府県会館に連絡を取る中で、山形県事務所を通じ庄内町の工藤時雄さんへつながり、この蛭祭りが始まったとのことです。

そもそも白金の地も、童謡「春の小川」のモデルとなった渋谷の河骨川こうほがわの下流となる古川が近くを流れており、かつては春にはすみれやれんげの花が咲き乱れ、夏には蛭が飛び交っていただろうと。

子ども達も庄内町の蛭鑑賞を楽しみにしていて初日は731人、2日目は1008人の大行列で見学まで約2時間待ちとのことでした。

この他にもこども縁日、キッズ天の川アー

ト、スタンプラリー、ライブステージ、屋台村&物産展など、誰もが楽しめる内容になっていました。

物産展では約50店舗のうち庄内町が6つテントをお借りして、お米やお酒の他、庄内の特産品を販売しました。特に「つや姫だんご」は大人気で長蛇の列が途切れることなく、準備した1980本も終了2時間前には完売する盛況ぶりでした。

祭りやイベントの良さは、それぞれが役割を持ち参加者も含めて、一緒に祭りを作り上げていくことにあると思っています。回を重ね地元の人々の自信や誇りにつながるものになっていきます。

天の川蛭祭りを通して、白金プラザ会や港区との交流をさらに深め、本町の自然や食の豊かさが全国に情報発信できるよう継続、拡大していきたいと思っています。



庄内町長 富樫 透